

長田の 町に ガオー！

横山光輝

「うわあつ。かつこええ！」

たろうくんは、わかまつこうえんに そびえ立つ 大きな ロボットを 見上げて 思わず 声を あげました。

たくさんの 人たちが 校しゃ 四かいの 高さ ほども ある ロボットと同じ ポーズを とりながら、しゃしんを とっています。

「どうや、かつこええやる。」

ロボットを 見上げている たろうくんにおじさんが 声を かけてきました。

「これはな、てつ人二十八ごう いうんや。リモコン そうさで 空を とんで わるい ロボットと たたかってたんやで。」
「うわあ、すごい。」

「横山光輝さんって　いう、神戸で　生まれた　ゆう名な　人が　かいた　ま
んがの　お話　やけどな。」

「なんや。おっちゃん　びっくり　させんといてよ。でも、なんで　こんな　で
っかい　てつ人を　この　こうえんに　つくったんやろ。」

「はんしん・あわじ大しんさいって　知ってるか。」

「うん。ぼくは　まだ　生まれて　なかつたけど、ぼくの　家も、町も　たい
へんやったって。」

「そうやねん。でも、　みんなで　力を　あわせて、自分たちの　町を　ふっ
かつ　させたんやで。もっと　もっと　長田の　町を　元気に　しようど
がんばったんや。どんな　ことにも　まけへんで、長田の　町が　すきやね
ん　という　思いを　こめて　つくったんや。」

おじさんは　話しながら　てつ人の　ように　げんこつを　高く　つき上
げました。

たろうくんは、力強く 話す おじさんが、てつ人の ように かつこよく 思えて きました。そして また てつ人を 見上げました。なんだか とて も ゆうきが わいてきました。

「ぼくも、てつ人に なりたいな。」

「おっ、そうか！たのむで、み来の てつ人くん。」

おじさんは うれしそうに たろうくんの かたを ポンと たたきました。

「ガオー！」

たろうくんも 空に 手を つき上げて 大きな 声で さげびました。

本資料の著作権は兵庫県教育委員会に帰属します。
本文のすべてまたは一部について無断で複写して使用することを禁止します。